

丹沢	水無川本谷遊行	No.076
----	---------	--------

昭和41年12月3日

前回の偵察山行の成果を元にして冬山正月山行に関して以下のことを決定した。

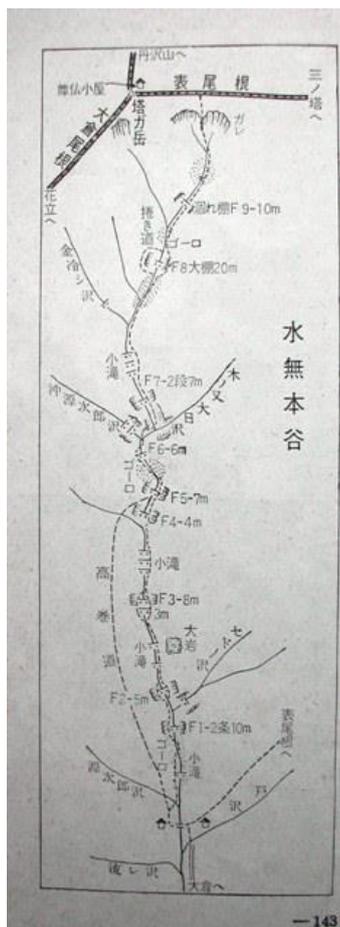
- ① リーダーは小林、食料担当は鵜飼、装備担当は吉野
- ② ガソリンコンロを近日中に購入すること ③冬山用天幕を借用すること
- ④ 12月 18日に予備山行を行い、天幕とコンロの取り扱いにも熟知すること
- ⑤ 食料買出しと最終打合せは 12月 25日、出発日は 12月 28日朝とする

昭和41年12月17日

12月3日の打合せで決定した予備山行、場所は丹沢。

小田急線の終電に乗るべく新宿駅へ。この日は鵜飼が参加できず、その代わりに加藤が参加。

地下鉄の中で野中さんとはったり、新宿駅で高校の同級生長藤君とはったり、奇縁なスタートとなった。



昭和41年12月18日(快晴)

渋沢からタクシーでモミソの出会いへ。真っ暗闇の水無川に幕営。

ここで今回の目的のひとつである「冬山用天幕(ウィンパー)の幕営体験」をクリヤ。時刻は3時頃だろうか。広い天幕の中でゆったりと食事をしながら様々な雑談。空が明るくなったところから雑魚寝。

8時頃起き出して天幕の外に出ると、目の前のモミソの出会いの壁ではもう何人かがアプザイレンの練習をしている。天幕を撤収して作治小屋に預けて本谷へ。

本谷は前々回の山行で単独遊行しているので、緊張感はない。しかし、この緊張感がないのがいけなかった。ひとつだけ恐ろしい体験をしたので記しておこうと思う。

F8をセカンドで登っている時のこと、トップの吉野が直径一寸ほどの小石を落とした。ところが、彼が落石を知らせる声を上げなかったため小さなハングから顔を出した私の側頭に命中。

「キーン」という響きを残して石は高く跳ね上がってさらに下へと転がって行った。もし前頭か後頭だったら気絶して転落していたに違いない。長い長い余韻の響きを残して頭が唸っていると、後方から加藤の怒鳴り声が飛んできた。



さあ、これで初めての冬山合宿の準備はほぼ完了した。

あとは 25日の食料買出しと最終打合せを残すのみ。出発日まであと 10日、まずは健康に留意というところか。

以上

(修正・更新:2023年11月)